

れきみんオムニバス講座

瀬戸内海文化を探る5つの旅

-50年間の調査の軌跡-

先日、来館者のある方が、私にシャープな質問をあげました。「瀬戸内海文化という言葉をよく聞きますが、そのような文化はあるのですか」と。心の底をつかれた思いでしたが、私は「あるのではないかと仮設のもとで、その存在や内容を明らかにしていくことが、本館活動の基礎にあるのです」と答えざるを得ませんでした。この道のりははるか遠いように思われます。

村川 節彦 (瀬戸内海歴史民俗資料館2代目館長)

『瀬戸内海歴史民俗資料館年報』(1977(昭和52)年)「はじめに」より

広域資料館として、瀬戸内地方という広大なフィールドを研究対象とした瀬戸内海歴史民俗資料館。それぞれの時代、職員はどのような方法で瀬戸内海文化を探ってきたのか、「旅」を切り口に紹介するオムニバス講座(全5回)を開催します。

第1回

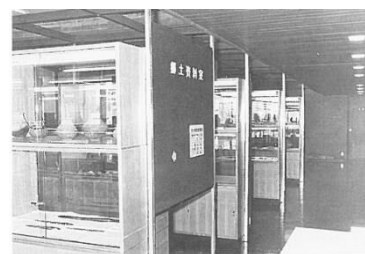
旅の始まり 昭和40～50年代の文化財状況と歴民

1/20(土)

講師 千葉 幸伸 氏(三木町文化財保護協会会長・元当館専門職員)

10:00
- 11:30

当館の源流の1つに、香川県の施設として初めて広く文化財全般を展示公開した香川県文化会館郷土資料室(昭和43(1968)年開設)があります。高度経済成長期の開発が進むなか、県内の文化財に関心を向けるための取り組みが求められていました。当館の設立経緯について文化財保護の視点からお話いただくほか、草創期ならではのエピソードもご紹介いただきます。



香川県文化会館郷土資料室

第2回

コレクションの魅力を追いかけて ふな だいく ろ や やりや おいこ 船大工・櫓屋・檣屋・負子-国指定と未指定のコレクション-

2/3(土)

講師 織野 英史 氏(四国民具研究会会長・元当館専門職員)

10:00
- 11:30

大陸と畿内を結ぶ大動脈であった瀬戸内海は、和船の故郷(ふるさと)でもあります。「船大工用具」は、海運を支えた職人の技を今に伝えています。また瀬戸内の各地で活躍した負子などの背負運搬具には、大陸文化とわが国の在来文化が融合した跡を見ることが出来ます。島に山にこれらを追って始まった旅での発見を語り尽くしていただきます。



弘化三年弁財船板図
(部分・重要有形民俗文化財「瀬戸内海の船図及び船大工用具」)

【予告】

・第3回 2/17(土) 10:00 - 11:30
「瀬戸内海、北海道に郷土民俗芸能の原型・ルーツを求めて
一位牌を背負う盆踊り、さぬき獅子の分布調査」

溝渕 茂樹氏(さぬき市文化財保護審議会委員・元当館専門職員)

・第4回 3/10(日) 10:00 - 11:30
「れきみん古文書資料との《旅》-その魅力と重要性-」

山本 秀夫氏(岡山県立記録資料館資料集編纂専門員・元当館専門職員)

・第5回 3/24(日) 10:00 - 11:30
「日常のモノに秘められた深層世界を探る-網と海民と瀬戸内の旅-」

真鍋 篤行(当館専門職員)

申込期間 第3、4回 1/12(金)から、第5回 2/9(金)から、定員になり次第終了

れきみんオムニバス講座の申込方法

会場	瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室
参加料	無料
定員	各回25名(先着順)
申込方法	電話、はがき、FAX、「香川県電子申請・届出システム」でお申し込みください。 ※お申し込みの際は、行事名と氏名、電話番号をお知らせください。電子申請・届出システムをご利用の場合は、香川県ホームページの「オンライン手続等」から「電子申請・届出サービス」にアクセスし、各講座名から必要事項をご記入の上、お申し込みください。
申込期間	12/8(金)から、定員になり次第終了

瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2 (五色台山上)

TEL 087-881-4707 FAX 087-881-4784

https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/

JR高松駅から車で約25分・JR坂出駅から車で約30分◎徳島方面から…高松自動車道檜ICより車で約30分◎岡山方面から…瀬戸中央自動車道坂出北ICより車で約30分◎愛媛・高知方面から…高松自動車道坂出ICより車で約35分*いずれも県道高松王越坂出線の大崎の鼻経由◎駐車場:普通車30台、大型バス可

